



植竹中だより



目指す生徒像: 自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」
〒331-0804 さいたま市北区土呂町352

TEL 048(663)2115

さいたま市立植竹中学校
FAX 048(665)6377

文化祭を終えて

校長 上 続 昌 司

少しずつではありますが厳しい暑さも和らぎ始めてきました。連日「猛暑日」と報道されていたので「夏日」と聞くだけで、少し気持ちが楽になるような不思議な感覚になることもあり、異常な暑さが続いていたことが分かります。最近では夜になると、秋の虫たちの鳴く涼しげな音色が聞こえてくるようになってきました。秋はもうすぐやってきそうです。

さて、9月5日に行った文化祭について振り返りたいと思います。メイン会場の体育館に入った瞬間、文化祭のテーマである「祭」が分かる装飾が施され、「文化祭が始まる」という高揚した気分になりました。そして、開会式の実行委員長さんの挨拶では、この文化祭を成功させようという強い想いを感じることができました。

プログラムNo.1は、演劇部の発表です。2つの劇を披露してくれました。出演者の皆さんが、「その人」になりきり演じている姿に毎回感心させられます。そしていつも思うのは、長いセリフを覚えるだけでなく感情を込めて演じることができている事に驚かされます。英語弁論では、こちらも原稿をしっかりと覚えこみ、しかも英語で伝える難しさを乗り越え、見事に最後まで発表できていました。次に「広島への中学生平和学習派遣事業」に参加した、牛込さんの発表がありました。8月6日「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」にも参加し、その時の様子や様々な交流を通して感じ、学んだ貴重な体験を発表してくれました。改めて平和の重要性を考えることができました。次はビブリオバトルです。3名の代表者が、本に対する想いを熱く語る姿が印象的で、どの本についても興味をもつことができました。自分では選ぶことが無いかもしれませんが、その本の良さを紹介してもらうことで、関心をもつことができそうです。次は有志の発表です。短い演劇と漫才が披露され、他の発表とは違う空気を愉しむことができました。次はギター部です。演奏前に曲の紹介があり、どんな特徴があるのか事前に知ることによってワクワクした気持ちが高まりました。演奏が始まると指先や爪で弦を弾くきれいな音と共に、上半身で弧を描きながら表現する姿があり、どの曲もその世界に浸ることができました。そして最後は吹奏楽部の演奏です。昨年もそうでしたが、サプライズで3学年の先生方のパフォーマンスを観ることができました。もちろん、コンクールで演奏した楽曲の素晴らしさは言うまでもありません。演奏する側と観ている側が一体となって楽しむ様子は、文化祭の醍醐味と言って良いと思います。

続いて、展示作品について触れたいと思います。まずは写真記録部です。作品を眺めていて気付かされるのは、「一瞬」を捉え、動画では味わえない「瞬間」ゆえに伝わってくる良さが写真にはあることです。そんな「一瞬」を見事に捉えた作品が数多く展示されていました。ユースボランティア部は、サスティナブルバック(包装紙の再利用)や、様々な技法で作成した作品が展示してありました。特にドリップング技法は、スプーンで絵の具を紙に垂らして描く技法ですが、細い線や点等を見事に表現できていました。見た瞬間に「それだ」と分かる作品もありました。美術部の作品は、画面いっぱいに作成した人の気持ちが表現されていて、油絵独特の筆遣いが素晴らしいと感じることができました。その人にしか描けない世界観は、いつ、どうやって想像しているのか興味が湧いてきます。茶道部の展示には、茶器や和菓子について紹介した掲示物があり、日本の伝統文化が脈々と受け継がれている事の素晴らしさを伝えてくれていました。科学部は、自由研究の成果を展示していました。身近な現象に新たな視点をもって研究し、科学の面白さを十分に発揮できている力作でした。家庭科部は、「水族館と動物」をテーマとして掲げ、手作りのエプロンや刺しゅうを駆使したネクタイ等の魅力的な作品が展示されていました。どれも個性があり、手に取ってみたいくなるような作品ばかりです。囲碁・将棋部はルールや部員が作成した「詰碁・詰将棋」をととても分かりやすく解説してくれていました。このように展示作品には、当然ながらそれぞれの想いが詰まっていて、その創造力に魅了されました。

今年の文化祭も大いに盛り上がり、それぞれの部活動の魅力が存分に発揮されていたことに大きな喜びを感じます。そして終始「祭」というテーマが意識されていたことも、大成功の要因だったのではないかと思います。

